

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	O691900096		
法人名	社会福祉法人双葉会		
事業所名	グループホーム桜の里双葉		
所在地	南陽市桐塚1632-19		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 29 日	開設年月日	平成29年 4 月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 1 日	評価結果決定日	令和 4 年 2 月 10 日

(ユニット名 あきは

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様お一人おひとりの個性を大切にし、自分の役割を持ち「ここで暮らしたい」と思い安心して過ごすことができるような場となるように和やかな雰囲気づくりを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員各々が理念を実践するため個別目標を作り、半期ごとに振り返り自己評価することで、理念の共有と実践に繋げている。また、職員の自己評価を管理者等が評価指導することで、力量の把握や働きながらのトレーニングとなっている。事業所の計画に基づいた研修では、職員がアンケートを提出し、その習熟度の確認や研修内容の評価をすることで研修の質の向上に繋がっている。医療機関との連携では、受診時連絡票を使って、利用者の心身の状況が報告され、医療機関の受診結果が記録され、家族への報告も記載され、医療機関、家族、事業所との情報の共有が図られ、利用者、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し理念をもとに各自の目標を立て実践につなげている。	理念を見やすい場所に掲示するとともに、職員各々が理念を実践するため個別目標を作り一緒に掲示している。職員は目標を半期ごとに振り返り自己評価しており、管理者は、職員の能力を把握しながらみんなが理念を共有し、理解し実践に向け努力していると評価している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響が長引き、昨年に続き地域の方との交流を図ることができなかった。ご家族様に対しては、定期的にご利用者様の様子を電話や広報誌で伝え、情報を共有できるように心がけた。また、ホームページの活用にも取り組みながら事業所を知っていただけるように取り組んでいる。	感染症対策もあり、思う通りの交流は出来ていない。近隣住民と散歩などで触れ合う際は挨拶を忘れず、変わらぬ関係の継続に努めている。事業所の理解を深めるためホームページに活動状況などを掲示し、新たな取り組みも始めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度に続き新型コロナの影響で外部の方との交流を図ることができなかった。グループホーム周辺を散歩した時などには、積極的に挨拶をかわすようには努めてきた。今後状況に応じての検討をしていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、書面での報告のみで委員の方から意見を受ける機会は少なかった。新型コロナも落ち着いてきており今後開催の方向で検討を進めていきたい。	地区長、有識者、市職員、家族代表で2か月ごと文書ではあるが開催している。事業所の状況や行事等の計画、研修の成果等が報告されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度、相談を行ない助言や協力を得る体制を整えている。	運営推進会議の記録等の報告で、現状の理解を頂いている。制度上の問題や利用者の個別の問題等へは、窓口とやり取りし協調しながら問題解決に向け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行っていない。危険が予測されるご利用者様については定期的な見守り、コールセンサーを活用し安全に配慮している。また、コールセンサーの使用についても都度必要性の有無を検討しながら行っている。また、職員会議の中で定期的に会議を開催し現状の確認を行い、グレーゾーン等についても意見交換等行ない見直すようにしている。</p>	<p>身体拘束に係る指針や研修、身体拘束適正化委員会によって、職員に周知している。また、事業所の会議で、問題点等を話し合い不適切な対応の無いよう努力している。安全確保のため、センサー等の使用にはその必要性や経過を協議し検討を重ねている。離脱等危険につながる行為を起こす利用者には、会議でその兆候や原因、対処方法等を検討し、職員間で共有し連携し安全を確保し、鍵をかけないで過ごせるよう工夫している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃のケース記録、職員ミーティング等で虐待が行なわれていないか確認するとともに、高齢者虐待防止の研修参加者からの伝達研修を行ない学機会も作り防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度を使う機会がなく活用するまでに至っていない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご利用者様、ご家族様へ説明行ない不明な点や不安な点がないように配慮している。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご面会時や電話等で相談している。</p>	<p>感染症対策もあり従前のような面会は出来ていない。ガラス越しや携帯電話等を活用している。毎月、利用者の生活の様子が伝わるよう、写真入りの広報誌を配布したり、電話等での状況報告を行い、変らぬ信頼関係の継続に努力している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を2ヶ月ごとに定期開催し、この会議の際や日頃のミーティング等で意見を挙げてもらい反映できるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの意欲向上を図るため、勤務条件や環境について代表者とも相談している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、職員研修を実施し発表の機会を持つようにしたり、日々のミーティング、会議で訓練を行なっている。	職員各々が目標を掲げ、普段のケアを振り返りながら自己評価し、管理者等が評価指導することで、力量の把握や働きながらトレーニングすることに繋がっている。事業所の計画に基づいた研修では、職員が受講後にアンケートを提出し、その習熟度の確認や研修内容の評価をすることで研修の質の向上に繋がっている。会議で事業所の時宜に応じた勉強会もあり、学ぶ機会は十分にある。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の施設とは電話や面談等で交流を図っている。オレンジカフェ連絡会に参加し情報交換を行なっている。今後関係機関の会議等へも参加していくようにしていきたい。	近隣のグループホーム事業所と情報交換が行われている。地域の福祉事業者によるオレンジカフェ連絡会は、事業所間での情報交換の場になり、ネットワークが大切にされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様本人に関する情報収集に努め、不安なく過ごせるように関わりを持つようにしている。また、日頃からご利用者様からのお話に耳を傾け信頼関係の構築を図るようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との面談の際や入所後の様子をお伝えした際に、不安や要望がないか伺う機会を設けるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	都度、必要なサービスがないか見直しを図るとともに、入所時1か月の暫定プランとし、入所後の様子をみながら1か月後プランの見直しも同時に行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が主体となり、職員は暮らしを支える立場であることを認識し常に接するようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会が取れない状況の中で、ガラス越しで携帯電話を用いた面会を行ったり、本人と電話で直接話す機会を持ちながらご利用者様の様子が伝わるようにしている。ここに来て制限はある中であるが、直接の面会も再開し共に笑顔が見られている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様ご本人の意向を尊重し、なじみの関係の方との関係を継続しているが、新型コロナの影響でご家族様以外との面会はできないため、電話やガラス越しで元気な顔を見ていただいたりしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、ご利用者様同士での関わりを促し孤立しないように支援している。ご利用者様自ら関わりを持つようとする方も多く見られる。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の特養へ移行された方や医療的ケアが必要となり入院での退所となった方と関わる機会を持つようにしてきた。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様お一人おひとりと関わりを持ち、意向を確認し尊重するように努めている。	職員は利用者との関りの中で話を聞くことを大切にし、表現が難しい方にはしづさなどから気持ちや意向を把握している。役割や楽しみを持っていただけるよう、興味や関心を引き出し把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際にご家族様から生活歴、生活に対する意向を確認したり、入所後も面会時や電話でのやり取り及び受診同行時等に情報収集を行なっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々状態観察を行ない、記録やミーティング等を活用し、情報の共有を図っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のモニタリングを行ない、ご利用者様ご本人の状態を確認している。状態に変化があった際はミーティング等で相談行ない、計画の見直しを行っている。	毎月サービスの実施状況の把握が行われ3か月ごとに計画を評価し、状況の変化に応じ又は1年ごと計画の見直しが行われている。見直しの際には会議で職員の意見や家族の意見を踏まえ、今出来ることを継続することに視点をおき、現状に応じた計画になるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の状態観察を行ない、気づいた点があれば職員ミーティング等で意見交換行なっている。併せて、職員会議で気づきの大切さや記録の重要性についても学機会を持ち取り組んでいる。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響でご利用者様の自宅周辺のなじみの関係の方との面会等はできなかったが、電話でのやり取りや職員が玄関先で対応しお互いに状況をお伝えするなどし関係性が経ちきれないように今後に繋がられるようにしてきた。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続し受診できるようにしている。定期受診ごとにご利用者様の状態を報告し指示を受けるようにするとともに、判断に迷うようなケースがあった際は電話での問い合わせで指示をもらい対応できるようにしている。	入所前からのかかりつけ医との連携を大切にしている。受診時連絡票は、事業所内での利用者の心身の状況が記され、受診結果が記録され、家族への報告の記録も記載され、医療機関、家族、事業所との情報の共有が図られている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師へ電話で相談や診察時に相談したりし、健康観察を行なっている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を取りながら、退院後の受け入れについても都度協議している。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	普段から状態の変化等について連絡を取り合いながら、このような状況が訪れた時にスムーズに移行できるように事前に事業所として出来ること、出来ないことをあらかじめ説明行ない理解を求めるとともに医療機関とも相談しながら本人にとって最適な状況づくりに努めている。	看取りは行っていない。早い段階から事業所の出来ること出来ないことが家族と協議されている。状態の変化に伴い医療機関、家族との話し合いが行われ重度化や終末期に向けた方針が共有されている。医療機関や併設施設を含めた、事業所による終末期に向けた環境作りの支援の例もあった。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備している。今年度は外部講師を呼んでの研修ができない状況であったため、内部で現状に合わせた研修を企画し実施した。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施の他市主催の水害対策の訓練に参加するようにしているが、今年度も新型コロナの影響で実施することができていない。	感染症の拡大もあり避難訓練が行われていない。	地域住民を交えた避難訓練や災害対策の検討を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修も行いながらご利用者様の立場に立って、言葉かけや対応を行なっている。	職員は、理念の実践のための個人目標の自己評価や研修により、人格の尊重や誇りやプライバシーを損ねない対応に心掛けている。親しみのあまり行き過ぎた対応の無いよう、普段から職員同士注意し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様お一人おひとりに合わせ、意思決定ができるように関わりを持つようにしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけ等を行なう場合もあるが、ご利用者様のペースで過ごしていただけるように心掛けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等に着替えの準備をご利用者様と共に行ない、自分で服を選んでいただけるようにしている。また、整容もできる限りご本人で行なっていたけるように声かけしていただくようにしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好を把握し、好のものを召し上がっていたくようにしている。ご飯を柔らかめに炊いたりおかずも調理の前に下茹でしたり食べやすいようにカットするなど工夫している。また、ご利用者様にも調理に参加いただき役割を持ち生きがいや楽しみを持っていただくように努めている。	食べたいものを利用者から聞くことを大切にしている。調理や片付けなど職員と一緒にいき家庭的な食事となるよう支援している。畑の収穫や季節の行事など食事にアクセントをつけ、楽しみなものになるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時毎の食事量や水分量を観察し、不足になっていないか確認し観察している。不足が心配されるご利用者様については、補助食品等の検討やかかりつけ医等にも相談行なうようにしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの支援を行なっている。夕食後は義歯洗浄の支援を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、個々人の排泄パターンを把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。また、自分でパット等交換できる方には交換しやすいようにセッティングしている。	排泄チェック表を活用し、適時の誘導や声掛けでなるべくトイレで排泄できるよう支援している。必要な利用者には、介護計画に具体的な支援方法を記載し、職員が連携し、評価を繰り返しながら自立に向けた支援を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を防ぐ食材を調理に使用したり、適度な運動や水分を促し改善を図っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人おひとりの入浴日は決めず、声がけし希望のあった方に入浴してもらっている。また、お楽しみ入浴などの工夫を行ない楽しく入浴できるような取り組みも実施している。	入浴日は決めずに、希望を優先している。入浴を好まない方には、職員の交代や声掛け誘導の方法を工夫し、清潔が確保できるよう支援している。お楽しみ入浴として、ハーブ湯やゆず湯など入浴が楽しみなものになるような工夫もしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体力や体調に合わせての休息をとっていただくようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、効果を把握するとともに既往歴等も確認し表れやすい症状などについての勉強会も開催し理解を深め状態観察するようにしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを持っていただくことが出来るよう、お一人おひとりの興味、関心を引き出し把握するように心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状新型コロナウイルスの影響で車でのドライブ等しかできない状態となっている。今後外出することが出来るようになったら、個々の希望を伺い外出する楽しみが持てるようにしていく。	感染症に配慮しながら車中ドライブを行うことが出来た。日常的な散歩や畑作業などの外出も大切にしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を活用しご利用様がお金を使えることができる環境を整えている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から希望があれば応じている。現状面会も制限がある中で、電話でのやり取りでお互いの安心に繋がるように努めて行なっている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や明るさの調整、清潔に努めている。季節感を感じていたたけるように季節に合わせた装飾を行ったりし、快適な空間で過ごしていただくように努めている。	温度や湿度、明るさが管理されている居間に、テーブル・椅子・ソファが置かれ、そこで利用者が、それぞれ思い思いに作業したり、寛いだりしている。壁面やテーブルは、季節の飾り物が置かれたり、思い出の写真が飾られている。ゆったりとして居心地がよさそうである。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の希望に応じて対応できるように配慮するが、現状新型コロナウイルスの影響で実施できていない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様とも相談しながら、落ち着いて過ごせる環境づくりを行なうように努めている。	出来るだけ自宅に近い住居環境とするように、馴染みの身の回り品を持ち込んでもらい、また、楽しい思い出の写真などで部屋を飾ってもらっている。職員は、清掃にも配慮している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を分析し、ご自分で出来ることは行うことが出来るように安全面に配慮し環境を整えるようにしている。		